

令和7年度当初予算（案） ～「突き抜ける世界都市」の実現に向けた本格展開～

令和7年度当初予算は、松井市政として、実質初めての通年予算であり、令和6年度の「京都の未来を見据え、種まきとなる基盤づくり」から、令和7年度は、限りある財源を京都の価値を高める施策へ重点的に配分し、「突き抜ける世界都市の実現に向けた本格展開予算」として編成しましたので、その概要をお知らせします。

※ 詳細については、記者会見資料及びホームページ「京都市情報館」内の「令和7年度予算について」を御確認ください。

1 予算の概要

（単位：億円）

項 目	R⑥予算	R⑦予算案	R⑦－R⑥
予 算 規 模	9,616	9,575	△41
実質的な予算規模	※ 9,574	9,575	+1
うち中小企業融資制度 預託金除く予算規模	8,134	8,415	+281

※ 本頁含め、R⑥予算は第一次編成と第二次編成の合計で記載

R⑥予算規模は9,616億円であるが、第一次編成で第二次編成財源として財政調整基金に積み立てた42億円分が、第二次編成の予算額と重複しているため、上記では重複分を除いている。

(1) R⑦予算規模：9,575 億円

※ 過去2番目の規模（過去最大はコロナ禍に編成したR③予算の1兆円）

(2) 歳入予算について

➤ 市税収入が堅調（過去最高を更新見込み）

＜R⑥3,178 億円 → R⑦予算 3,361 億円（+183 億円）＞

(3) 歳出予算について

➤ 社会福祉関連経費は、引き続き増加傾向

＜R⑥3,209 億円→R⑦予算 3,292 億円（+84 億円）＞

※ 障害者総合支援、介護・後期高齢などが増。第2子以降の保育料無償化の開始による増

➤ 中小企業等の融資制度預託金が減（融資残高の減）

＜R⑥1,440 億円→R⑦予算 1,160 億円（△280 億円）＞

➤ 投資経費は大規模工事終了により減となるものの、施設の老朽化対策等を充実

＜R⑥724 億円→R⑦予算 699 億円（△25 億円）＞

(4) 収支均衡予算を継続。

(5) 過去負債（公債償還基金の計画外の取崩し）を計画的に返済、将来世代に配慮した財政運営へ

◇ 過去負債の残高：425 億円（R⑦予算 10 億円を計上時点）

2 当初予算の具体的な取組

- 地域企業等の担い手確保やDX推進等の生産性向上等による下支え、市民生活と観光の調和・両立の更なる推進、さらには救急隊増隊をはじめとする市民の安心安全対策、健診機会の充実などの市民一人一人の健康づくりなど、市民生活を守る施策を強化していきます。
- 第2子以降保育料無償化などの子育て負担の軽減、京都安心すまい応援金の充実などのすまいづくりや、公園の魅力アップなどの居場所づくりの強化に加え、演劇教育の実践や探究学習の充実など、京都ならではの特色ある教育を実践することにより、人口減少課題に対応していきます。
- 世界と社会にインパクトを与えるスタートアップの創出・成長支援や海外企業誘致などの企業立地の取組の強化とともに、区役所や学校との協働の下、様々な場所で地縁や志縁組織等の交ざり合いの中から、地域課題の解決を目指す取組など、京都の価値・強みを活かした先導的・挑戦的な取組を展開していきます。
- さらに、限られた財源の中、効果的・効率的な施策を展開していくため、
 - ◇ 府市協調・オール京都の取組や、公民連携等の新しい公共を推進していきます。
 - ◇ 加えて、「ゼロ予算」(※)による取組も推進していきます。(※) 追加予算をかけず、既存事業の創意工夫や組織体制の強化等により対応

3 今後の行財政運営の基本方針

- 歳出抑制に軸足を置いた財政運営ではなく、(＝歳出上限を設定せず)、京都のまちの魅力や市民生活の豊かさの更なる向上を図り、担税力の強化、持続可能な行財政の確立にもつなげていきます。

このため、市民参加・協働の下、京都の目指すまちの姿を共有し、財政状況の見える化を図りつつ、社会経済情勢等に応じた不断の点検を行うとともに、限りある財源と人員を、京都の価値を高める施策へ重点的に配分します。さらに、将来世代の負担軽減により、将来負担を適切にコントロールしていきます。
- 京都市の財政状況は着実に改善しているものの、京都ならではの都市特性が残念ながら税収面では課題であり、加えて、インフレが進む中であらゆるコストが上がっていることや、人口減少の課題等もあり、引き続き緊張感をもった財政運営に取り組んでいく必要があります。